

新・海外安全部会長に聞く

—— 海外安全・危機管理の基本とは？

味の素(株) 法務・コンプライアンス部
コンプライアンス・危機管理グループ

見里 朝士 氏

(第11代 海外安全部会長／日外協「海外安全・危機管理責任者認定試験」講師)

日外協「海外安全部会」とは

海外安全センターが主催。会員であれば任意でメンバー登録可能。

海外安全対策をテーマとした講演会を年3回(上期、下期、年初(兼 賀詞交歓会))実施。

講師は、企業の担当者や海外安全セキュリティコンサルタント、外務省の専門家など。

部会長は部会メンバーから選出され、事務局と共に企画および運営に携わっている。

【2024年度開催実績】

4月23日「パリ・オリンピックに向けたテロへの備え」

講師：日外協・海外安全アドバイザー 筆口 秀一郎 氏

9月11日「トヨタの海外安全の取組み」

講師：トヨタ自動車(株) 人事部 総括室 柴山 英昭 氏

25年1月10日「2024年の振り返りと2025年に向けた安全対策」

講師：外務省 領事局 邦人テロ対策室長 栗本 知彦 氏

—— 海外安全センターは

1992年に設置されました。

実は「海外安全部会」がス

タートしたのは、それより

も早く日本企業の海外進出

が加速した1986年です。

今回、部会長をお引き受け

いただく見里さんは11代

目ということになります。

最初に社歴について教えてください。

入社してから丸41年ですが、そのうち18年間は労働組合の専従役員です。特に1998～2010年の12年間は国際労働組合組織の日本事務所長を務め、年の3分の1は海外出張でした。出張先は本部のあるジュネーブが最も多く40回以上、他にはアジア太平洋地域をはじめ世界各地を回りました。こうした業務での海外出張



聞き手：安田 直樹
海外安全センター長

は、現地法人のサポート(空港ピックアップ時の社用車での送迎など)が期待できる社内業務とは異なり、ほぼ全てが自己手配、自己責任です。当時はまだ企業の危機管理の意識が低かったこともあり、トラブルにも見舞われました。

—— 具体的にはどういったトラブルでしょう？

実は2013年6月号のこのコーナーにも寄稿しているのですが、「フィリピンのレストランで座席真横の窓ガラスを外の歩道からたたき始めた男に気を取られている間に、店内に控えていた男の仲間にかばんを盗まれた」「アルゼンチンで歩行中にケチャップ・スリに遭い、窃盗被害は免れたがジャケットは汚された」「デンマークで電車の網棚への荷物上げを手伝うふりをした男にかばんを持ち逃げされた」などです。タクシーに乗ると、違法改造されたメーターがやたら早いスピードで上がっているのですぐに降車したり、乗車した時から高額になっていたのりでセットさせたこともあります。また、同行者の財布やパスポートの盗難、ホテル・ロビーでのかばんの置き引き、偽警官によるクレジットカード番号および暗証番号の開示強要などの犯罪被害に加え、体調を崩し動けなくなってしまったケースにも遭遇しました。

こうした事案を通じて、現地警察への盗難届や大使館でのパスポート再発行手続き、現地病院への付き添いなど、トラブル対応の経験を積み、自分なりのチェックポイントや安全基準を少しずつ習得しました。